

8月23日の戦争を語り継ぐ会で

千代田 熊田洋子

今年は、終戦から70年。立ち位置を朝鮮・韓国側に移せば、植民地解放から70年、日韓基本条約調印から50年の節目の年。数字や条文で線引きしても、人生を踏みにじられた被害者たちの傷が癒えることはない。しかし二度と被害者が出ないよう、平和のためにと、辛い経験を語る日本軍「慰安婦」とされた女性たち。90歳を超える日本在住の宋神道さんもカミングアウトしてから声を挙げ続けてきた。その宋さんを長年に渡り物心両面で支え、十把一絡げに「過去に清算済み」とする理不尽な国の対応に対峙してきた梁澄子(ヤン・チンジャ)氏が語る。

【梁澄子氏プロフィール】

戦争と女性の人権博物館(WHR)日本後援会代表、日本軍「慰安婦」問題解決全国行動共同代表、通訳・翻訳業、一橋大学等で非常勤講師。北海道厚岸生まれ。

【共著書】『朝鮮人女性が見た慰安婦問題』『もっと知りたい慰安婦問題』『20年間の水曜日ー日本軍「慰安婦」ハルモニが叫ぶゆるぎない希望』ほか。

9条壊すな！戦争させない！ 10周年のつどい

伊豆の山 川瀬渉貴

6月14日の「九条の会さかど10周年のつどい」では、4月3日に開催された「奥平康弘さんの志を受けつぐ会」の記録ビデオを上映しました。また、紙芝居ボランティアグループ「あじさいの会」により、紙芝居文化推進協議会主催「第15回手作り紙芝居コンクール」で大賞を受賞した『大空襲の5日後に』などを鑑賞しました。この作品は、2008年8月の「戦争を語り継ぐ会」での溝端町の猪瀬秀夫さんのお話(当会ニュース11号・12号掲載)を、元町の岩瀬正樹さんがシナリオ化し、東坂戸の井出裕子さんが紙芝居にしたものです。

最後は「平和のうた」を歌い、憲法前文と第9条を心限りに唱和して、戦争法案への対決を誓いました。

「国の交戦権は、これを認めない」ストップ！戦争法

◆奥平先生の怒りー1月25日「最後の講演」より

安倍総理がスローガンのように常用する「積極的平和主義」という言葉の欺瞞性には怒りを発し、折から後藤健二さんたち二人の人質事件の最初の山場にさしかかり、犠牲を平然と見過ごすための言い訳に使われたことには怒りが爆発した。(遺影に使われた写真は、髪が立って厳しい表情で、丁度このことにふれた時の映像であると思われる)

◆伝えていかなければならないことー大江健三郎さん

憲法9条が持つ人間的な良いところが戦後の若い人の人間性を作ったのではないかと常々言っておられた。

◆遺言として受けとめていることー澤地久枝さん

平和憲法を守り抜くことは大変なことだ。何事も時間がかかる。米国の黒人差別の解消にも50年かかった。今日明日に答えがでなくても、小さなことの積み重ねの中から、とんでもないところで成果が現れてくる。

◆憲法学者は美男子であるー暉峻淑子埼玉大名誉教授

「自由の中にかたく立て」というが、まさにそんな人であった。今度会ったとき「電車の駅毎に小さな集りを作ったら」と話したいと思っていたのに…

(まさに当日(6月14日)この時間、2万5千人のデモが掲げる「戦争させない」赤プラカード、「九条壊すな！」青プラカードが国会を包囲し、都内JR中央線や私鉄駅等の18ヵ所で「戦争立法NO！共同行動」でチラシ配布や安保法の違憲性が訴えられていたのです)



戦後70年 平和を心に刻む

2015年ヒロシマ市民の描いた原爆絵画展

8月1日(土)～2日(日) 坂戸市文化施設オルモ2階

原爆絵画展坂戸・鶴ヶ島地区実行委員会 (282-0495 池辺)

戦争を語り継ぐ 子や孫の時代へ

8月23日(日)13時30分～16時 坂戸駅前集会施設

日本軍「慰安婦」とされた女性たち(梁澄子さん)

へいわのうた、など 九条の会さかど (283-4723 栗原)

◆畏敬する仲間であった一樋口陽一東京大名譽教授

和して同ぜず、孤にして孤にあらず。かたい(硬質)ながら、後に続く者へ、人から人へと「少しでも良くする、悪くなるのを阻止する」ことを伝え導き、憲法学者のケジメをつけられた。

◆奥平せい子夫人の挨拶

平素、小さく低く生まれたから、小さく低く静かに往くと言ひ、告別式や追悼会は断るといふのが遺言でした。しかし多くの人が集い志を受けつぎ発展させる会ということですので、この遺影の渋い顔も少しは優しく笑っているのではないのでしょうか。

大きな力にはならなくとも、いつも参加をしていることが大事だと思っています。

◆発起人代表(司会)渡辺治一橋大名譽教授の閉会挨拶

奥平先生はいつも「僕は負けても言うんだ。やるんだ。走るんだ」と言っておられました。今日ばかりは先生に、反旗をひるがえささせていただきます。「負けてはならない!」、この改憲阻止に勝つことを希って。ありがとうございました。

実は、奥平康弘先生は、私の早大法学部時代のゼミの先生でもあり、5歳違いで兄貴のような感がありました。きゃしゃな体つきでしたが、色白く、髪黒く、いつもきれいに櫛目が通り、ひげが濃いのか剃り跡青く、暉峻先生のおっしゃるとおり、憲法学者は美青年でした。「受けつぐ会」に参加したときいただいた略歴を見ると、新婚当時であったようでした。

講義の内容は「知る権利」であったか「表現の自由」であったかよく覚えていませんが、教壇上にじっと座っていることは少なく、いつも学生達の間の通路をゆっくり歩きながら、手振り身振りを入れながら説得するように話された。さわやかな風を運ぶがごとく、1週間ごとに顔を合わせるのが愉しみでした。

先生にとっては不束な教え子ながら、60年ぶりのこの機会に、「9条を守り、政府の行為によって再び戦争の惨禍が起こることのないようにすること」を改めて決意した次第でした。

憲法壊すな! 戦争させない! オール埼玉総行動に参加して

末広町 石川裕一

去る5月31日、さいたま市北浦和公園で開かれた「オール埼玉総行動1万人集会」に参加しました。当日予報されていた雨天どころか、スカッとした青空。太陽は輝いていましたが、時折吹き抜ける風が汗ばんだ頬に快く感じられました。

会場には色とりどりの団体旗が林立し、会場内には1万人を遥かに超える人びとであふれかえっていました。10時30分、あいさつに立った小出実行委員長は、「安倍内閣による憲法破壊の企みを国民の行動で打ち破ろう」と呼びかけました。

暑い太陽・熱い熱い大集会

既に各地で活動に取り組んできた弁護士会・労働組合・平和・教育・女性・青年など、幅広い立場の人達が、次から次へと「廃案にするまで戦い抜く決意」を

述べられました。参加者は力強い拍手で共感の意を示し、雰囲気は最高潮。

ゲストとして参加された元自衛隊員の泥憲和さんは、自衛隊に入った動機と体験を語られた後、「安倍首相の狙いは憲法改定と国防軍創設、騙されずに反対の声を上げ続けよう」と訴えられました。もう一人のゲストである鳥越俊太郎さんは、体調不良でドクターストップのためメッセージで参加しました。

「集会アピール」を万雷の拍手で確認の後、集会の締めくくりは1万人のシュプレヒコール。「憲法壊すな・戦争させない」を国会まで届けとばかりに響かせ、参加者一人ひとりの決意を示しました。

デモは3つのコース(浦和・与野・南与野)に分かれて行なわれ、沿道の人達に訴え・励まされながらの行進でした。

しんどい一日でしたが、参加した満足感がしっかりと残りました。

9条を守る運動を

千代田 明治大学元教授 滝澤昭義

日本国憲法第9条を骨抜きにして、日本を戦争をする国にしようとするたくらみが、一段とエスカレートしている。

衆議院憲法審査会で、自ら9条改訂論者と名のる小林節氏(慶応大・名誉教授)をはじめ自民推薦の長谷部恭男氏(早稲田大教授)など3人の参考人が口を揃えて、審議中の法案を「憲法違反」と断言した。こうした専門家の発言に対する政府の「反論」が危険ラインを超えてエスカレートしているのである。

中谷防衛相の「憲法を法案に適応させた」という発言をはじめ、「憲法の解釈が変わるのは当然」といって9条を無視する意図が明確になっている。憲法の「解釈」は学者がするのではなく政府がするものとまで言っている。これは時の内閣の「解釈」次第で日本を戦争をできる国にしてしまうという、とんでもない一歩を踏み出そうとするものだ。

一部の大手マスコミは、このような政府の言い分をそのまま報じるだけで、批判もせず垂れ流している。太平洋戦争とそれに先立つ中国大陸や朝鮮半島への「戦争の輸出」に手を貸したマスコミが、9条無視の政府の姿勢に目をつぶることは自殺行為に他ならない。

各種の世論調査でも「戦争法」に対する反対が過半を大きく超えている。我々の9条を守る運動を、さらに多数の国民の支持を得て広げる条件ができています。

アメリカ、財界とその意を帯した一部高級官僚の言いなりになって戦争をする日本を作ろうとする政治家のたくらみを、絶対に許してはならない。九条の会さかどがその運動を広げ存在意義を示すことが、いま強く求められている。

今後の運営委員会(会員なら誰でも参加できます)

7月23日(木)10時~12時、8月27日(木)10時~12時
北坂戸出張所内「坂戸市市民活動交流フロア」会議室
(溝端公園に面した「埼玉りそな銀行の看板」が目印)